

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070402583
法人名	医療法人 大郷内科クリニック
事業所名	グループホーム あんずの郷
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目3番25号 (電話) 093 - 562 - 8700

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成21年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての2~3階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	(光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(退去時の居室の原状回復費に充当)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	(月:1,000円)
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大郷内科クリニック / 岩鍋歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあんずの郷は、母体である医療法人大郷内科クリニックが、永年、地域での往診を中心に地域医療に関り、地域での高い信頼と実績を背景に看取りまでを行うグループホームを運営したいと開設したホームである。小倉都心部の街なかに立地し、恵まれた住環境を有し、3階建ての1階はデイサービス、2・3階はグループホームとなっている。地域との関係が深く、自治会の組長を担うなど、地域との関係を大切に入居者が地域とのつながりの中で豊かな暮らしを感じていただけるように施設長・ホーム長・職員がそれぞれの責任と役割を認識し、入居者本位の暮らしのあり方を追求しているグループホームである。家族は母体が医療法人であるため、健康面の管理に大きな安心と信頼を寄せている。また、職員の定着率が高い点も家族として大変喜ばれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回調査では、非常食の確保・認知症の啓発が課題として挙がっており、非常食は常備し、認知症の啓発に関しては、地域で介護相談会を開催するなど、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価は今回で3回目となり、職員は外部評価の意義を理解し取り組んでいる。自己評価は、ホーム長が中心となり、職員と共に日々のケアやサービスを振り返り作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>近郊に立地する同法人運営のグループホームねむの郷金鶏と合同の運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では、ターミナルケアの説明、苦情の内容説明・対応、ヒヤリハットの報告、事故報告・対応など、ホームの課題となる内容を取り上げ、意見交換を行い運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族が意見や苦情・不安など言いにくい点を配慮し、職員が直接話を聞き、ご意見用紙にまとめ対応し家族に報告している。また、運営推進会議に家族の参加があり、意見や意向を把握できるように取り組んでいる。今後は、(第2回目となる)家族とのコミュニケーションを高めるために家族との話し合いの場を設ける予定がある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し組長としての役割を果たし、回覧版や市政だよりを配布するなど、地域住民としての役割を担い、地域の敬老会でリハビリ体操の指導を行ったり、文化祭でブースを作り介護相談会を実施するなど、地域密着型サービスの役割を果たしている。また、ホームには、地域交流年間スケジュールがあり、月別及び定期的な行事や活動計画が落とし込まれ、地域の情報把握に努めると共に、積極的に協力・参加できるように取り組んでいる。保育園の慰問もあり、入居者と職員は散歩の際には、小学校のパトロールを行ったり、子ども達との交流も盛んである。また、ホーム行事の餅つき大会などに地域の参加も呼びかけている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	運営理念と介護理念を掲げ、介護理念の3本の柱の一つに【地域に根ざした「安心と安らぎ」のあるグループホームを目指します】という地域密着型サービスの役割を果たす内容が明記され、これまでの地域との深いつながりを背景に、地域と共にグループホームが歩んでいくという視点を明確に理念に反映させ、事業所独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を毎朝の朝礼で唱和し、日々の業務の中で、理念に根ざしたケアやサービスが提供できるように努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入し組長としての役割を果たし、回覧版や市政だよりを配布するなど、地域住民としての役割を担い、地域の敬老会でリハビリ体操の指導を行ったり、文化祭でブースを作り介護相談会を実施するなど、地域密着型サービスの役割を果たしている。地域の祭りでは、職員が御神輿を担いだり、ホームの行事に地域の方に声をかけるなど、年間を通して地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価は今回で3回目となり、職員は外部評価の意義を理解し取り組んでいる。自己評価は、ホーム長が中心となり、職員と共に日々のケアやサービスを振り返り作成している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	近郊に立地する同法人運営のグループホームねむの郷金鶏と合同の運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では、ターミナルケアの説明、苦情の内容説明・対応、ヒヤリハットの報告、事故報告・対応など、ホームの課題となる内容を取り上げ、意見交換を行い運営に活かしている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	グループホーム協議会に加入し、協議会を通じて行政との情報交換や提言などを行い、行政との連携に努めている。また、北九州市より派遣される介護相談員(月に1回)を受け入れ、北九州市との連携も図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	同法人運営のグループホームねむの郷金鶏に権利擁護の利用者が2名おり、権利擁護センターと連携し、利用まで結びつけた実績がある。ホーム長・施設長は権利擁護を理解しており、職員へ権利擁護の理解をすすめている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月1回、入居者の状態を見ていただけるように写真付きの「ふれあい通信」を発行しており、「ふれあい通信」には、入居者個別の健康状態・行事(レクリエーション)・ケア状態・生活状況・行事予定・介護目標が詳しく記載され、入居者の状態が手にとりやすい報告となっている。また、家族の面会が多く、来られた際には随時家族に報告し、行事の機会にも家族との交流を図り、安心していただけるように取り組んでいる。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族が意見や苦情・不安など言いにくい点を配慮し、職員が直接話を聞き、ご意見用紙にまとめ対応し、家族に報告している。また、運営推進会議に家族の参加があり、意見や意向を把握できるように取り組んでいる。今後は、(第2回目となる)家族とのコミュニケーションを高めるために家族との話し合いの場を設ける予定がある。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	異動や離職の際には、なじみの関係に配慮し職員配置を行い、入居者のダメージを最小限に抑えるように取り組んでいる。また、職員に異動や離職がないように、休みの調整や親睦会の開催・資格取得のバックアップなどに取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用の際には、介護経験や国籍などを問わずに採用している。採用前には、ボランティアとして数日勤務し、お互いに勤務状況を確認している。また、職員の働く意欲を高めるために、資格取得のバックアップや社会参加など、働き甲斐のある職場づくりに努めている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の人権を尊重したケアを実践するために年2回、チャレンジシート(自己評価表)を利用して、日々のケアやサービス提供(バイタルチェック/食事介助/トイレ介助/おむつ交換/入浴介助/移乗介助/気づき/見守り/対応/ケアプラン/調理など)の中で、人権に配慮しているかを確認し、再度、ケアやサービス提供の見直しを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間の研修計画があり、また、グループホーム協議会や小倉介護サービス事業者連絡会に加入し、研修や情報交換の場を確保し、積極的に研修受講に取り組んでいる。職員が順番に講師役を務めるなど、職員が学び、働く意欲を高めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会や小倉介護サービス事業者連絡会に加入し、研修や情報交換の場を確保している。グループホーム協議会では、グループホームの見学会を行うなど、同業者間のネットワークを築いている。今後は更なるネットワークづくりに期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	同法人が運営するデイサービスが1階にあり、デイサービスを利用していただきながら、徐々になじんでいただくなど工夫している。短時間の日帰り利用や家族同伴の体験入居(場合によっては1週間以上の体験入居も実施)を実施し、無理のない入居を支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	これまでのなじみの暮らしを中心に料理の場面では、味付けや盛り付けを行ったり、掃除・洗濯など、できることを自分で行っていただくなど、本人が活躍する場をつくり出している。また、入居者と職員は、1対1で話し、入居者の話に共感するなど、入居者が意欲をもって暮らしていただけるよう取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の日誌に入居者の思いや意向を把握しようと入居者の状態や思い・気づきを記録している。管理者・職員は、センター方式も検討し、本人の思いや意向にどのように寄りそったケアが実践できるかを日々懸命に取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族に介護計画を理解し、情報の共有化を図るために、わかりやすい目標設定を立てている。介護計画作成は3段階に分け、ベースは担当職員が作成し、次にホーム長・施設長が確認しチェックを行い、介護計画を作成している。また、かかりつけ医や他専門職にも意見・希望を聴き、現状に即した介護計画作成に努めている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画に対して、ケア目標を意識した日々の取り組みができるように、日々の実施内容が具体的な内容となっている。3ヶ月後の検討結果により、残された課題を整理し、介護計画の見直しを行っている。日々のケアやサービス実施が大変わかりやすいものとなっており、ホーム独自のノウハウの蓄積がある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>1階のデイサービスや近郊に位置する同法人のグループホームねむの郷金鶏と日常的な交流があり楽しみごとも多い。デイサービスの車利用により、入居者のドライブなども支援している。年に1回、誕生日には、「あなたの夢叶えます」という個別レクを実施し、結婚式や墓参り・魚釣りなど、入居者と職員が1対1で多様な楽しみごとを個別に支援している。また、法人のPTによる嚙下体操・足のむくみ体操・腰痛など体操を取り入れ、機能維持に努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に希望を聞き、かかりつけ医を選択していただいている。法人の母体が医療法人であるため、必要に応じて院長への相談ができ、週1回の受診を支援している。健康の管理面で家族にとっては大きな安心がある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	医療連携体制により、2ヶ月に1回、医療連携連絡協議会を開催し、入居者一人ひとりの緊急時の対応シートが作成されている。これまで看取りの実績があり、重度化に関する指針やホームの看取りについての考え方を打ち出している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のケアやサービス提供の中で、集団の声かけ・個人の声かけなど内部研修を行い、入居者の自尊心や羞恥心に配慮した声かけを行うように指導している。記録類は、事務所のコーナーに保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日課にとらわれないように、入居者の希望を最優先に職員がその日の業務など協力して行うように努めている。管理者・職員は「その日に何がしたいか」を基本的に体制を組み、希望がうまく伝えられない入居者には、選択肢を準備し、希望にそった過ごし方ができるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者は、盛り付け・皿洗い・味つけ・おやつ作りなど、できることを行っていたりできるように支援している。食事を楽しみにしていただけるように週2回、自由食を取り入れ、希望に応じた食事ができるように取り組んでいる。調査当日は、童謡の音楽がかかり、入居者と職員が共に同じテーブルを囲み楽しそうに食事をしていた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は個別に支援しており、入浴時間・順番・入浴剤の使用など個別対応である。入浴は多い方で週4～5回入浴している。入浴を楽しんでいただくために菖蒲湯や柚子湯にしたり、時には銭湯に行くなど工夫している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の得意分野を活かし、プリンターによる野菜づくり・折り紙による雛人形作り・絵画・編物など楽しんでいただけるように支援し、できること・したいことを考慮しながら取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として近くの公園の散歩や買い物など外出している。天気の良い日には、ドライブなど入居者の希望に応じて支援し、回転寿司やカフェなど、ドライブの楽しみごと支援している。散歩がてらの小学校のパトロールは地域貢献の面もあり、大変喜ばれている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	2階にはチェイム、3階にはピンポンと音で外出がわかるようになっている。職員は入居者の安全確認ができるように作業する場所や立つ位置に工夫したり、職員同士で声をかけ合うなど、鍵をかけないケアを実践している。夜間は警備保障のシステムを導入し、安全を確保している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	自治会の集まりや、運営推進会議を通じて地域に協力を呼びかけている。地域における避難場所も確認している。校区の防災訓練にも参加し、歯科大の応援も確保している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人のデイサービスの栄養士に献立を作成してもらっている。食事の摂取量は1300calを目安とし、水分摂取量は1000～1500ccを確保している。水分の補給に配慮し、少ない場合は工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は明るく、季節に応じた装飾品など家庭的な環境となっている。入居者が作った雑飾りなど手づくりの品が置かれ、居心地の良い空間としての工夫がある。対面キッチンからは、料理の臭いや準備の音があり、入居者は和やかにくつろいでおられた。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	なじみの家具や大正琴・テーブル・椅子など、思い思いの物を持ち込まれ、写真なども飾られ、入居者一人ひとりの落ちついた住まいとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			